

募集要項

第22回日本社会福祉士会 全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会） 分科会発表の募集を開始します！！

2014年7月5日（土）～6日（日）に鹿児島県鹿児島市にて「第22回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（鹿児島大会）」を開催します。本大会のテーマは、「変化する社会構造と社会福祉士～多様な福祉ニーズに応えるために～」です。学会分科会については、大会テーマに沿った以下のテーマでの発表者を募集します。

分科会は、都道府県社会福祉士会会員の皆さまによる社会福祉実践と理論の研究発表の場となっています。都道府県社会福祉士会の会員であれば、どなたでも発表の資格があります。特に社会福祉士としての実践をされている多くの会員の方からのご応募をお待ちしています。

分科会発表の申込の詳細については、本開催要項の3ページ目以降の分科会発表申込要領をご覧ください。また、本要領および分科会申込様式については、1月10日以降に本会ホームページでも公開いたします。ぜひふるってご応募ください。

<分科会発表申込の概要>

- 発表資格：日本社会福祉士会の正会員に所属する社会福祉士
- 発表内容：①個人発表（A～F分科会）の場合：発表15分、質疑15分以内。（採用は各分科会5本程度）
②自主企画シンポジウム（G分科会）の場合：3時間以内（採用は1本）
- 申込数：1人1発表
- 募集期間：2014年1月10日（金）～2014年3月31日（月）

主旨 社会保障制度改革国民会議を始め、生活困窮者支援制度、障害者や児童に関する制度など社会保障制度、社会福祉制度が大きく変わりつつある現在、社会福祉士がどのように応えるかを考える。

1. 開催のねらい

(1) この20数年の間に、急速に少子高齢化が進行し、家族構造、地域社会のあり方は大きく変化しています。また情報化社会や経済のグローバル化の進展により、日本企業は厳しい市場競争に晒されています。このような社会経済の変化は、福祉現場への市場原理の導入、それに伴う利用者の意識構造の変化など、福祉現場にも大きな影響を与えています。そのような状況の中、人と人とのつながりが希薄になり孤立する人や認知症などの要介護状態にある孤独な高齢者、広がる経済的格差による貧困層の増加など、社会福祉の対象とする範囲も広がっています。

今学会では、より複雑に多様に变化する社会構造の中で、さまざまな課題を抱えながら生活する一人ひとりにどのように寄り添い、支えていけるかを考えます。また、これから社会福祉士としてどのように変化していかなければならないかを考えると同時に、社会福祉士として変わることなく持ち続け、磨いていかなければならない核になる価値、知識や技術について再確認する機会となるでしょう。

(2) 生涯研修制度の6領域（社会福祉士がとらえる「権利擁護」「生活構造」「相談援助」「地域支援」「福祉経営」「実践研究」）に即したそれぞれの発表を通して、これからの社会福祉士実践についての議論を共有します。

(3) さまざまな実践現場における社会福祉士の活動に基づく発表と質疑応答、意見交換を踏まえて、社会福祉士が目指す方向性を明らかにし、専門性の向上を図ります。

2. 分科会の構成

A分科会：「変化する社会構造と権利擁護」（社会福祉士がとらえる「権利擁護」）

人権の擁護と社会正義の原理は、ソーシャルワーク実践の基盤である。人々が自らの権利を主張し、権利を獲得していく過程を重視しつつ、利用者本位の支援を実現するためには制度やネットワークの活用のみならず、ソーシャルアクションや市民参加による権利擁護システム構築が求められる。さまざまな課題を抱える人々が、安心して、その人らしい生活を送れるために、社会福祉士が果たすべき役割・機能について考える。

- 発表例**
- 権利擁護の取り組み実践と課題
 - 権利擁護にかかわる多職種連携やネットワーク
 - 成年後見制度・日常生活自立支援事業の課題と展望
 - DV・虐待事例など具体的ケースへの援助
 - オンブズマン、苦情対応等による権利擁護の実際
 - 権利擁護への住民参加の取り組み・推進事例

B分科会：「変化する社会構造と生活構造」（社会福祉士がとらえる「生活構造」）

生活課題は、社会とのインターフェースで起こるとされている。世間の価値観に生活者は影響を受けやすい。生活者と生活環境の関わりを見据えながら、社会福祉士は、生活構造を的確に分析・把握できる能力が求められる。人と環境との相互作用として生活全体をとらえ生活を動的に理解した上で、問題の背景や将来への見通しをも含めた支援を展開することが社会福祉士に求められている。「生活とは何か」「自立とは何か」「参加とは」を手がかりに、社会福祉士が果たすべき役割・機能について考える。

- 発表例**
- 生活問題の重層化・長期化・多様化への取り組み
 - 利用者の多様なニーズに対応するケアマネジメント
 - 若者の雇用環境、低所得者、失業問題など新たな生活課題への取り組み
 - 親子で抱える負の連鎖、教育機会の不均等、中途退学など教育機会の確保
 - 滞日外国人等の生活問題への対応

C分科会：「変化する社会構造と相談援助」（社会福祉士がとらえる「相談援助」）

社会福祉士には、専門職としての「価値」「知識」「技術」に基づいた相談援助が求められる。「生活の質」「自立」「自律」など、生活のさまざまな側面に着目していかねばならない。また社会福祉士の活動範囲も広範となっている。潜在的な福祉ニーズを抱える者へのアウトリーチや地域や組織への働きかけ、さまざまな職種との連携も相談援助活動に含まれる。多様な分野で活躍する社会福祉士の機能・役割について考える。

- 発表例**
- 援助困難事例と家族療法
 - 問題解決課程で発生した専門職のジレンマ
 - 社会からの逃避と再参加にむけた支援法
 - 施設における利用者支援の実際と課題
 - クライアントを発見するアウトリーチの実際

D分科会：「変化する社会構造と地域支援」（社会福祉士がとらえる「地域支援」）

社会福祉士には、サービスが総合的かつ適切に提供されるよう、地域に即した創意工夫が求められている。地域を基盤とした支援の展開が重要視される現在、人々が生活する地域のあり方が変化している。個人・家族を取り巻く環境としての地域に働きかけ、変革を促し、新たな地域のつながりをつくるために、社会福祉士に求められる機能・役割について考察する。

- 発表例**
- NPO 法人によるあらたな福祉実践
 - 地域における生活困難者のサポート体制づくりと実践
 - 地域における多職種ネットワーク形成活動
 - 社会排除に関する実態把握とその支援
 - 社会資源の効果的活用と新たな資源創設活動
 - 独立型社会福祉士による実践

E分科会：「変化する社会構造と福祉経営」（社会福祉士がとらえる「福祉経営」）

持続可能な社会保障制度確立のために、制度の根本的見直しが検討されている。景気低迷の影響は福祉サービスにも影響を与え、サービスにかかる人件費の割合は減少している。このため、社会福祉分野の良質な人材確保に困難が生じている。多様な経営主体が参画する中で、顧客と職員両方の生活の質を安定的に保障すること、顧客の満足感に対応できるサービスが求められていることから、福祉サービスにおける品質管理は経営上の課題となっている。

- 発表例**
- 各種法人の現状と課題
 - 各種法人における品質管理の手法
 - 人材育成・人事考課と職場管理の取り組み
 - 職場における業務改善・業務開発
 - 苦情対応やリスクマネジメントの現状と課題
 - 外国人労働者及び緊急雇用対策における失業者の介護労働市場への参入における課題
 - 公益法人のあり方と経営実践

F分科会：「変化する社会構造と実践研究」（社会福祉士がとらえる「実践研究」）

社会福祉士としてより質の高い支援を提供するためには、自らの実践を振り返り、評価・検証し、研鑽を繰り返すことによって力量を向上していくことが不可欠である。また第三者に対して、援助の意義や効果を根拠と共に適切に説明できる能力も求められる。さまざまな課題に取り組む社会福祉士の実践を検討することによって、社会福祉士が実践すべき援助活動について考察する。

- 発表例**
- 社会福祉士の実践活動とその評価
 - 社会福祉士養成教育における実習指導の現状と課題
 - スーパービジョンや研修に関する実践報告
 - 災害ボランティア等における社会福祉士の取り組み
 - 出所者支援における社会福祉士の取り組み
 - 犯罪被害者支援における社会福祉士の取り組み
 - 就労支援における社会福祉士の取り組み

G分科会：「自主企画シンポジウム」

会員の自主的な企画によるシンポジウムです。社会福祉実践にかかわる内容であれば、テーマ・形式は問いません。養成機関と現場との連携、多職種ネットワーク、地域で検討されている課題、支部での効果的な研修・研究の実践など、参加者と共に討議できる機会を大いに活用して下さい。